

平成25年度病害虫発生予察情報 特殊報第1号

平成25年11月29日

発表：福島県病害虫防除所

病害虫名 クロメンガタスズメ【*Acherontia lachesis* (Fabricius)】

寄主植物名（作物名） トマト

1 発生状況

平成25年9月に中通り南部のミニトマト施設栽培ほ場において、著しく葉を食害している大型のチョウ目幼虫が確認された。本幼虫を飼育し羽化させた結果、クロメンガタスズメであることを確認した。

その後、県内の発生状況を調査したところ、中通り南部のトマト、中通り北部のナス、トマトにおいて本種とみられる幼虫の寄生を確認した。また、中通り南部からはタバコでの発生情報が寄せられた。なお、平成22年には郡山市の家庭菜園のナスで幼虫の寄生が確認されているほか、各地で成虫の採集記録がある。

本種はかつて南方系の種とされていたが、1990年代から分布を拡大しており、近県では茨城県（平成22年）、埼玉県（平成23年）および栃木県（平成24年）から本種発生に関する特殊報が発表されている。

2 形態

成虫は開張約100～130mmの大型のスズメガで、胸部背面に灰色の人面型模様があるのが特徴である。近縁のメンガタスズメとは、後翅基部に黒紋があることで区別できる（写真1、2）。

終齢幼虫は120mmにも達する大型のイモムシで、体色は緑色型、褐色型、黄色型など変化に富む。また、尾角の先端が鉤状で上方に曲がっているのが特徴である（写真5）。

3 生態

年1回、夏から秋に発生し、蛹で越冬するとされているが、10月に羽化個体が得られたり、トマトほ場での産卵が確認されていることから、年2回発生の可能性もあり詳しい生態は不明である。

卵は寄主植物の葉裏等に1個ずつ産下されるため、孵化幼虫は単独で食害する（写真3、4）。トマトでは太い葉柄を残して葉のみを食害し、花や果実は食害しない。幼虫は成長すると食害量が非常に多いため、発生が少なくても株全体の葉が食い尽くされるような被害が生じる。

寄主植物は、トマト、ナス、タバコ等のナス科のほか、ゴマ科、ヒルガオ科、マメ科等である。

4 防除対策

現在のところ本種に対する登録薬剤はない。食害痕や地上に落ちている糞を目安に幼虫の発見に努め、見つけ次第捕殺する。



写真1 成虫1



写真2 成虫2



写真3 トマト葉裏の卵



写真4 孵化幼虫



写真5 終齢幼虫



写真6 蛹

本情報に関するお問い合わせは、福島県病害虫防除所 発生予察課

TEL:024-958-1709 FAX:024-958-1727 e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp へお願いします。